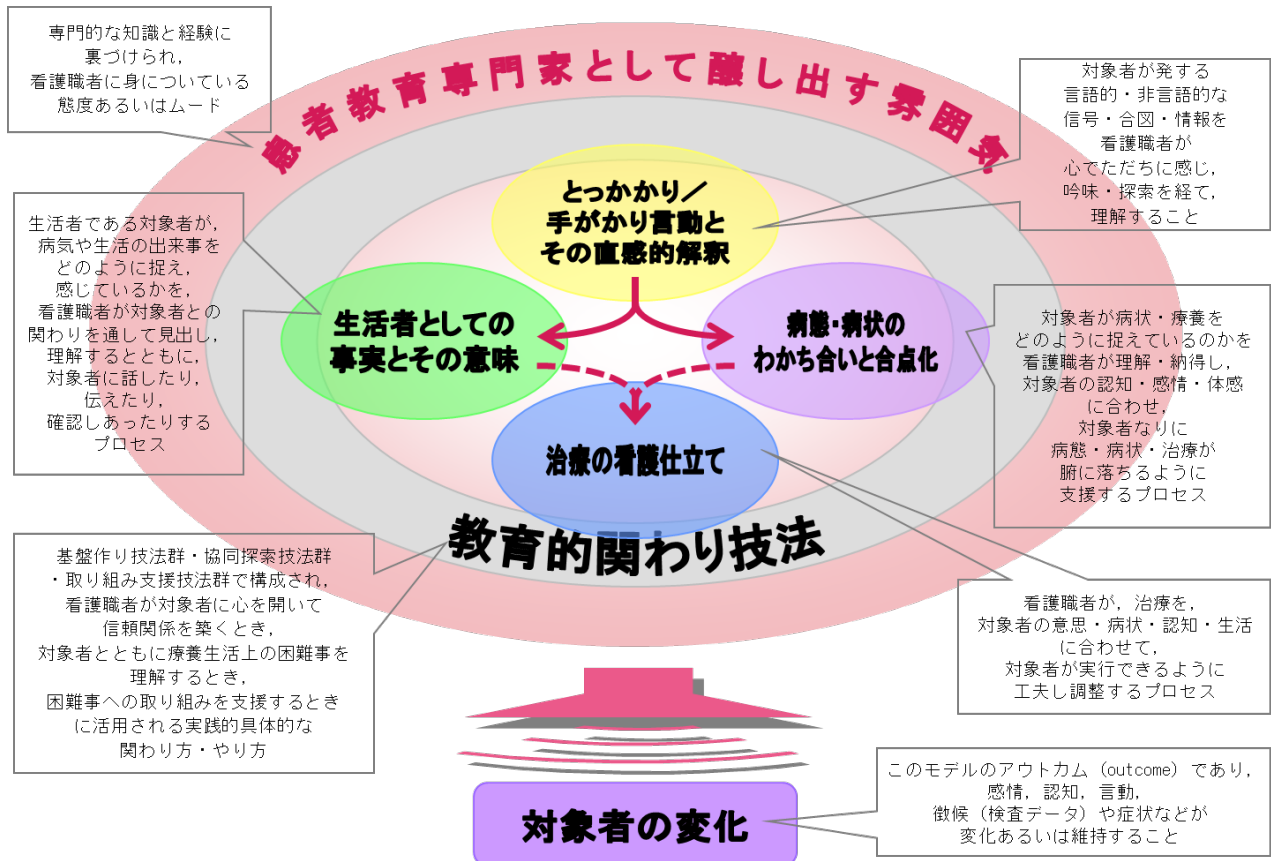


困った患者と思っていないか？～見せます！熟練看護師のプロの技～

患者教育研究会代表：河口てる子¹

メンバー：井上智恵²、安酸史子³、岡美智代⁴、小林貴子⁵、近藤ふさえ⁶、小平京子⁷、小田和美⁸、東めぐみ⁹、伊波早苗¹⁰、横山悦子⁶、太田美帆¹¹、滝口成美¹²、大澤栄実¹³、道面千恵子¹⁴、伊藤ひろみ¹⁵、下田ゆかり¹⁶

¹日本赤十字北海道看護大学看護学部、²大阪医科大学附属病院、³関西医科大学看護学部、⁴群馬大学大学院保健学研究科、⁵横浜創英大学看護学部、⁶順天堂大学保健看護学部看護学科、⁷関西看護医療大学看護学部、⁸札幌市立大学看護学部、⁹東京都済生会中央病院看護部、¹⁰草津総合病院、¹¹東京家政大学健康科学部看護学科、¹²大森赤十字病院、¹³独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター、¹⁴九州大学大学院医学研究院保健学部部門、¹⁵元砂川市立病院、¹⁶杏林大学医学部付属病院看護部



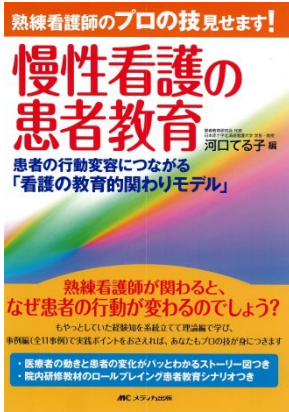
看護の教育的関わりモデル Version 8.0 (通称:TKモデル)

看護の教育的関わりモデル Version 8.0 (通称:TKモデル)

「看護の教育的関わりモデル」とは、看護職者が、医学・医療の専門的な判断をしながら、いかなる状況においても対象者の価値観や信念に添いつづけようとする、看護職者の直感・認知・行為を説明した患者教育実践の概念モデルである。それは、看護のあらゆる場面、機会を活用して、対象者の生活習慣やこだわりを耳を傾け、生活者としての価値観を尊重し、病態・病状を納得できるように支援しながら、対象者とともに療養方法を見出し、時には治療をその人の生活習慣に引き寄せるように調整するなどの看護実践を示している。

対象者の変化の例

	対象者の気になる状況	望ましい変化
感情	悲しみ、恐怖、怒り、不安、つらい、苦しい、重たい気持ち、先が見えない、突き落とされる感じ、情けない、憤り、不信任感、不満、自己効力感が低い、無力感、希望がない、感情表出が少ない、自覚的 QOL の低下	安心、喜び、気が楽になる、気が軽くなる、救われた気持ち、ほっとする、信頼、満足、自己効力感が高い、気力がでてきた、希望がでてきた、自覚的 QOL の改善
言動	アクションプランを実施しない、血糖測定をしない、非効果的な療養行動、人任せ、治療中断、定期通院しない、目をそらす、質問しない、腕を組む、のげぞる、緊張した声のトーン、隙だらけの背中、肩を落とす、悲しげな背中、涙、日常生活に支障がある、家庭内での役割を果たせない、他人事のこととして病気を捉えた発言	目を見て話す、質問してくる、アクションプランを実施する、血糖測定をする、自己選択、自己決定、自分から話しかける、定期通院、柔らかな声のトーン、日常生活に支障がない、社会的な役割を果たすことができる、自分のこととして病気を捉えている発現
認知	わからない、データの意味が解釈できない、療養行動に必要な知識不足	わかった、合点がいく、納得、データの意味を解釈できる
表情	硬い表情、こぼった顔、眉間のしわ、口角がゆがむ	目の輝き、穏やかな表情、笑顔
徴候 (検査データ) や症状	コントロール不良/悪化する/改善せず、合併症の出現、HbA1c の変化	コントロール良好/悪化しない (維持)、自覚症状改善
環境 (人的・物的)	家族の過干渉、職場の同僚や上司の無理解、融通の利かない生活環境	穏やかな家族の見守り、職場の同僚や上司の協力、融通の利く生活環境



熟練看護師のプロの技見せます！ 慢性看護の患者教育

—患者の行動変容につながる「看護の教育的関わりモデル」

編集:河口てる子 発行:メディカ出版 2018 年 1 月 1 日

第 2 部事例編 第 4 章 102~109 ページ

事例紹介 頑なに「透析だけはしたくない」と繰り返す腎臓病患者

事例紹介 桜井さん 72歳 女性

- 60歳頃に蛋白尿と高血圧を指摘された
- あと2年ほどで透析導入という見通しを医師から伝えられ、透析だけはしたくないという思いから、自ら専門病院を受診した
- 専門医からも、透析を先延ばしにすることはできるが、避けることはできないと説明を受けた
- 検査データ
Cr4.2mg/dL, e-GFR8.8mL/分/1.73m²,
蛋白尿 2.7g/日



関わりが難しい状況 ① 何度も同じことを繰り返す

透析だけはしたくないんです。
何とかありませんか？
(医師に繰り返し話す)

すぎる思いでこの病院にきましたが、
ここでも透析をするしかないって。
透析をしないですむ方法はないですか？



透析をしたくない理由を確認する

桜井さん

TK看護師

透析だけはしたくないこと、すぎる思いで受診したことをうなだれた様子で看護師に訴える。

透析に対する陰性感情を持つ理由があると感じる。

- ・「透析を始めると何もできなくなる」
- ・「今は身体がだるくてあまり行っていないが、スイミングに行けなくなってしまう」
- ・「人生楽しくいきたいんです」

頑なに「透析だけはしたくない」と繰り返すことが気になり、理由を尋ねる。

- ・「スイミングは楽しみなんです」と伝える。
- ・透析はこれまでと同じ生活を送るために行うこと、スイミングが行えることを伝える。
- ・身体のだるさと尿毒症症状を関連させて説明する。

関わりが難しい状況 ② 説明したことに対し、理解を示してくれない

そうではなくて、
もともと動くことが好きではないんです
(透析に)
向き合えないといけませんか



現状を受け止められる時期を待つ

桜井さん

TK看護師

「(透析に) 向き合えないといけませんか」と小さい声で言う。

今は無理に透析と向き合わせてはいけなく感じる。

「80歳まで透析をせずに生きられたらと思ってるんです」

身体のだるさと尿毒症症状を関連させた説明をやる。

「もっと早く専門の先生に診てもらったら、こんなに悪くなっていなかった」

「体調の良いときに透析を始めることも大切です」と、導入後の体調の変化も合わせて説明する。

- ・「減塩の食事を続けてきたからこそ、透析をせずに過ごしている」
- ・「大切なことは、自分らしい楽しい人生を送ること。そのための体調管理の手段の一つが透析です」と伝える。

透析が近い状況なのはわかりました
透析をしてスイミングができることも
わかりました
最後まであらがって、
必要な時には透析を受けようと思います

